

## 大後頭三叉神経症候群

体のどこであれ、痛いところがあるというのは辛いものだ。それが、後ろ頭から眼の奥にまで拡がるとなると、不機嫌にもなるだろう。

57歳のTさん。「寒くなってから、時々右の後ろ頭がヒリヒリ痛むようになった。このごろは目の奥も同じように痛む」と、深刻だ。「きっと、頭の中に病気がある」と思い込んでいるのだろう。

でも、そのヒリヒリとか、チクチクという、刺すような痛みは、頭や顔の表面にある神経の痛みだ。ずっと続かず、痛くない時もあるはず。そんな間において痛くなるのが、神経痛の特徴である。

神経は体のどこにでもあるから、頭にも顔にも神経痛は起きる。後ろ頭半分は神経痛は、首にある脊髄（頸髄）から出た後頭神経などによる痛みだ。前頭半分は顔の痛みは、脳から出た三叉神経の関係である。

Tさんの神経痛は、首が原因だ。首筋がカチカチに硬くなっている。その硬くなった首筋の中を走る大後頭神経や目の奥から

出てくる三叉神経の通り道を押さえると痛がる。「大後頭三叉神経症候群」である。

実は、大後頭神経と三叉神経の枝は頭のテッペンで繋がっている。更に、頸髄の中でも繋がっているのだ。首筋が硬くなって大後頭神経が刺激されると、後頭神経痛に加えて三叉神経も興奮して目の奥も痛くなるのである。

では、Tさんの首筋が硬くなった原因はなんだろうか？最近の寒さのせいか？スマホやパソコンをよく使うが、それだけでもない。ストレスが格別に増えたわけでもない。気難しく口数の少ないひとから、これ以上、生活習慣を聞き出すのは無理がある。

「とにかく手枕は厳禁。枕は高からず低からず。首をグルグル回さず、肩を回すように」と指示しただけで帰した。が、そのほうが薬よりも効果があったのか？1週間後のTさんはニコニコ顔だった。

（石黒修三 しいしへろクリニック・脳神経

外科専門医…11/20 北國新聞掲載）